

地域で学び、地域と共に歩む松本大学の今。

松本大学学報

sokyu 蒼穹

2022.12 Vol.149



笑顔が集った「梓乃森祭」が3年ぶりに対面で開催(詳しくはP.12をご覧ください)

特集 地域の広範な分野における “健康”をめざす

全力をあげて取り組む「松本大学健康首都会議」 P.02

●広島国際大学および東広島市役所関係者が視察のため訪問 P.05

●2022年度(2023年度採用)教員採用試験合格状況 P.06

●2年ぶりに海外留学が本格再開 留学を経験した学生たちの声 P.11

●本学から初のJリーガーが2名同時に誕生 合同記者会見で決意を語る P.14

●秋季体育大会の代替イベントとして松商短大クイズ大会を開催 P.15 ほか

地域の広範な分野における“健康”をめざす 全学をあげて取り組む「松本大学健康首都会議」

12月3日・4日に予定していました「松本大学健康首都会議」は、残念ながら、新型コロナウイルス感染症の感染拡大のために延期となりました。お申込みいただいておりますが、改めて今年度内に開催する予定ですのでご期待いただきたいと思います。今号では、「地域貢献」を理念とする本学が、この「松本大学健康首都会議」を計画した趣旨と、具体的な内容の一部を紹介します。



“健康”=より良好な状態に維持すること

**“地域の健康首都=松本大学”をめざし、
本学の各専門領域が広範な分野にわたる“健康”へアプローチ**

松本大学健康首都会議実行委員長・学長 菅谷 昭

松本市は、2011年より毎年、国内外からの講師を招き、「世界健康首都会議」を開催してきました。この会議は、“健康づくり(健康増進)”や“ヘルスケア産業の推進”を図ることを目的として、多くの市民や健康関連の産業並びに諸団体の賛同を得て発展してきました。しかし、2020年の第10回会議を最後に終了となりました。その後、市民の皆様や健康・福祉領域の関係者等から、松本大学でのこのような会議の開催を要望する声が強くなってきたことより、本学の関係委員会にも計り、当大学で開催する運びとなった次第です。

そこで、本学としては松本地域のみならず、周辺地域を含めたより広域における健全な発展に貢献するため、これまでと方向

性を異にし、本学の高等教育機関としての使命、並びに知的集団としての資質を活かした形で、地域住民や企業の皆様の“学び”や“実践”に資する会議としての運営を企図しています。加えて、私自身の前職であります松本市長時代からの政策展開してきました、医療・福祉のみならず、地域・経済・環境・教育・文化等、広範な分野における「健康」(より良好な状態に維持すること)をめざす姿勢を継続するため、本学の各学部の専門領域における教育・研究の成果等を活用し、全学をあげて独自性のある会議を構築して参る所存です。12月の開催は新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため、やむを得ず延期としましたが、今年度内に開催



全学あげて取り組む6つの“健康”

する予定ですので、引き続き多くの皆様方のご理解とご支援をお願いいたします。

誰でも気軽に学べる 多種多様なプログラムを展開 本学教員が講師となるほか学生も参加

地域連携委員長・健康栄養学科長 教授 高木 勝広

「松本大学健康首都会議」におけるプログラムは、「健康日本21(21世紀における国民健康づくり運動)」において、国民の健康寿命の延伸等が掲げられた重要課題を参考に考え、「運動」、「食」、「こころ」等の9つ会場を用意しました。各会場はそれぞれ3つの講座で構成され、その多くを本学の教員が担当し、実践教室では指導する立場で学生も参加します。以下、プログラム内容をいくつかを紹介します。

「『運動』による健康づくり」会場は、スポーツを専門とする大学院健康科学研究科の教員が「人との関わり、体を動かして「フレイル」「認知症」を予防しましょう!」とい

うタイトルで講座を担当します。池の平ホテルから健康運動指導士を招き、そこでの運動の実践を紹介していただいたり、またスポーツ健康学科の学生による運動実践講座も企画に入れたりしました。

「『食』に関わる健康づくり」会場では、「健康寿命延伸に備えた『食事のかたち』とは?」と題して健康栄養学科の教員が講座を担当し、専用のランチョンマットをつかって、「食事のかたち」をわかりやすく提案します。他には、「神奈川県未病改善ツアー」「フレイル予防食品臨床試験」等についての紹介や、糖尿病の予防効果が期待される食品成分についての、最新の研究成果も交えて説明します。

「『心』の健康づくり」会場では、本学教員がそれぞれの専門的な立場から、講座を担当します。テーマは、「自分にやさしく、ひとにやさしく」、「児童・思春期のこころの健康を考える」、「人のこころを少しだけ理解するための臨床心理学」となっています。職場や地域における人間関係や、また子どもの心について関心のある方には是非ご参加ください。

その他、次世代を担う「『子ども』の健康づくり」に関する会場、本学の地域健康支援ステーションが取り組んできた内容を紹介する「『地域』の健康づくり」会場、また旅、農業、色彩を題材とした「『社会生活』と健康づくり」会場等があります。また地域の防災という視点では「『地域』の安全を守る」会場、また「新型コロナウィルスから『健康』を守る」会場では、高雄(台湾)が行って来たコロナ感染症の対応や本学における取り組み、「情報」との付き合い方などを紹介する講座も計画しています。

12月3日、4日に開催を予定していた「松本大学健康首都会議」は新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、延期とさせていただきます。現在、来年3月の開催に向け準備を進めております。詳細が決まり次第、改めて本学ホームページおよび新聞等でご案内いたします。

開催予定講座一覧

記念講演

健康寿命延伸の最終目標：「生きがい創出」への誘い 松本大学 学長 菅谷 昭

第1日目

「運動」による健康づくり

- ・人との関わり、体を動かして「フレイル」「認知症」を予防しましょう!
- ・高原リゾートでフレッシュ!いきいき健康になろう
- ・中高齢者を対象としたフレイル予防のための運動実践講座

「心」の健康づくり

- ・自分にやさしく、人にやさしく
- ・児童・思春期のこころの健康を考える
- ・人のこころを少しでも理解するための臨床心理学

「食」に関わる健康づくり

- ・健康寿命延伸に備えた「食事のかたち」とは?
- ・糖尿病予防の機能的食品
- ・健康寿命延伸に向けた「神奈川県末病改善ツアー、健康栄養学科のフレイル予防食品臨床試験」の紹介

「地域」の安全を守る

- ・地域防災の諸課題
- ・地域防災と要支援者
- ・地域防災への取組

第2日目

「社会生活」と健康づくり

- ・健康と旅の勧め
- ・「農業」と健康づくり
- ・「色彩」と健康

「専門分野」による健康づくり

- ・未病を克服して健康寿命延伸を目指す音楽療法
- ・生活習慣病について(糖尿病・循環器疾患・がん)
- ・エンディングノート・リビングウィル

「地域」と健康づくり

- ・スポーツ産業からみるヘルスケアの今後
- ・地域健康支援ステーション活動報告-市町村における健康づくりへの支援-
- ・地域におけるロコモ・メタボ対策

「子ども」の健康づくり

- ・子どもの身体についての理学療法的な立場からの理解
- ・子どもの発達の違いについて
- ・松本山雅FC・松本大学サッカー部による運動教室

新型コロナウイルスから「健康」を守る

- ・高雄(台湾)におけるコロナ感染症対策の対応について
- ・松本大学における新型コロナウイルス対策への取り組み
- ・コロナ時代における「情報」との付き合い方(スマホ脳)

■ Pickup 講座 ■

中高年齢者を対象としたフレイル予防のための運動実践講座

人間健康学部スポーツ健康学科 根本ゼミナール

根本ゼミナールでは、4市町村、2企業で運動を中心とした健康づくり教室を行っています。本講座では、中高年齢者の皆さんがメタボ、フレイル対策に有効な運動トレーニング法をゼミナール学生がご紹介します。来場された皆さんと無理のないように一緒に体を動かしますので、「運動の具体的なやり方が分からない?」という方には是非ご来場いただけたらと思います。



生活習慣病について(糖尿病・循環器疾患・がん)

大学院健康科学研究科・健康栄養学科 教授 青木 雄次

生活習慣病に着目した健康日本21という国民健康づくり運動が2000年に始まり、2011年には国連において非感染性疾患(NCDs)対策として、食事・運動・喫煙・飲酒という生活習慣要因が採り上げられています。本講座ではこれらを背景に、生活習慣病としての糖尿病・循環器疾患・がんについて概説します。特に、研究室の活動として現在取り組んでいる「最近の乳がん発症増加と改善可能な生活習慣」について解説します。



健康と旅(ヘルスツーリズム)の勧め

観光ホスピタリティ学科 教授 山根 宏文

ヘルスツーリズムとは主として特定地域に滞在し、医学的科学的な根拠に基づく健康回復・維持・増進につながり、かつ、楽しみの要素がある非日常的な体験とあります。そこで、今回の講座では、旅と温泉・ハイキング・食についてお話しします。温泉については、温泉地選別に役立つ人気のある温泉地の要因について解説します。さらに松本市内には19の温泉がありますが温泉泉質に注目することによって、美容やそれぞれの健康増進に活かせる利用の仕方があります。

ハイキングについては、人気のあるハイキング先とその要因について、そして都会の人が憧れる田園歩きの魅力をご案内します。



食については旅に出かけて食べたくなるものと長野県の野菜の魅力を。さらに男性長寿日本一になった松川村のご長寿の食生活についてお話しします。温泉、ハイキング、食をテーマに旅に出られるときに役立つ知識を学んでいただく講座です。

児童・思春期のこころの健康を考える

総合経営学科 准教授 矢崎 久

児童・思春期は成長の途上にあり、自分自身でできること、解決することも少しずつ増え、成長を感じられる反面、他者に相談することもできず不安や悩みを独りで抱え込んだり、周囲とうまく付き合えず孤立したり引きこもってしまうことも珍しくありません。我が子が不安や悩みを打ち明けた場合、学校に行きたくないと言った場合、気のせいだ、しっかりしろと叱咤するのか、あるいは、様子を見るのか、専門機関につなげたほうがいいのかの判断はとても難しいことは確かです。児童・思春期はまさに成長の途上にあり、遅くなっていく時期でもありますが、他方、こころの健康を損なう可能性のあるデリケートな時期だとも言えるのかもかもしれません。児童・思春期のこころの健康について一緒に考えましょう。



地域連携活動

地域健康支援ステーション

「梓水苑」にて、運動教室の実施 自宅で手軽に出来る筋力トレーニングも紹介

エア・ウォーター東日本株式会社甲信越支社が松本市から指定管理として管理を委託されている梓水苑にて、毎月約3回、健康サポートとして運動教室を実施しています。参加者は60代から80代の方々に、継続して参加して下さっている方が多

く、なかには3年前から参加されている方もいます。

12月の開催では、寒い日が続いているので、全身を動かす脳トレや筋力トレーニングを行いました。脳トレでは、難しいと苦戦しながらも「次はもっと難しいものに挑戦し

たい」といった声もあり、楽しみながら取り組んでいただくことができました。

また、筋力トレーニングでは毎回テーマを決めて、自宅で手軽に出来る運動や少し負荷の高い運動を行っています。今回は、面積の大きい筋肉の部位をメインに動かし「基礎代謝向上」をテーマに行いました。熱心な方が多く、様子を見ながら途中で回数を増やすと、互いに励まし合いながら参加者同士で「こうした方がやりやすいよ」などとアドバイスをしながら行っている様子も見受けられました。

今年度の教室は来年3月まで予定されているので、引き続き地域の方々の健康維持のお役に立てるように取り組んでいきたいと思えます。

(健康運動指導士 岩崎 紗佑美)



最近の活動から

フレイル・サルコペニア予防の筋トレ講座を実施

去る10月20日と11月10日の2回にわたり、松本市健康づくり課西部保健センターと新村地区健康づくり推進員会との共催で、フレイル・サルコペニア予防として筋トレ講座を各90分開催しました。参加者は新村地区の健康づくり推進員10名と保健師1名でした。

講座は、本学のトレーニングルームにあるトレーニングマシンを使って筋トレを行いました。指導は山本ゼミの学生5名が担当しました。同時進行で全員の血管年齢測定(脈波伝播速度測定)も行いました。

学生は開始前こそ緊張の面持ちでしたが、参加者の血圧測定、体調チェックを終え、講座が始まると積極的にトレーニング指導を行っていました。全員でストレッチングから始め、自転車こぎやトレッドミル歩行中に声がけしたり、正しい方法を説明したりと、徐々に不安な表情からいつもの明るさでコミュニケーションを取っていました。参加者の皆さんも初回は緊張でぎこちない動きだったのが、2回目はスタートからやる気に満ちた表情で、積極的に筋トレに取り組まれ、時間いっぱいやりきった後は満足

な笑顔で帰られました。最後は集合写真も撮り、ぜひまたやってみたくと感想をいただきました。

今回のようにマシン筋トレを通してフレイル・サルコペニア予防に取り組まれる方々が少しでも増え、健康寿命延伸につながればと思えます。

(スポーツ健康学科 准教授 山本 薫)



講座の参加者と山本ゼミの学生たち

新村公民館にて健康講座 「コロナ禍いきいき 健康な毎日を過ごそう」



新村地区福祉ひろばにて地域の方を対象に健康講座が開催され、管理栄養士と健康運動指導士の資格を持つ平田治美准教授(健康栄養学科)が講師を務めました。高齢者の低栄養予防として1日に必要なタンパク質の量や、一杯で栄養補給ができる具だくさんみそ汁を紹介しました。栄養講話の後には、太極拳を基にした簡単なストレッチと呼吸法を行い、参加した10名の皆さんが熱心に聞き入っていました。

地域づくり考房『ゆめ』

松本市の「もったいないクッキンググランプリ」の審査に協力 さらに食品ロスについて考えるきっかけに

松本市環境・地域エネルギー課で新たに企画をされた「第1回もったいないクッキンググランプリ」へ「◎いただきます!!」の学生が試作試食審査に関わらせていただきました。こちらの企画は、家庭での食品ロスや生ごみの削減をさらに進めるために、「もったいないクッキングレシピ」を市民から募集し、優れたレシピを表彰するものです。かつて共に「もったいないクッキングレシピ集」を作成した繋がりもあり、またプロジェ



クトの学生が食品ロスについての関心も高く、今回の協力に至りました。

当日は5名の学生が参加し、書類選考を通過した6レシピについて、調理時間や手順を考えながら2グループに分かれて試作をしました。調理をする中で分量や調理方法について判断に悩む場面もあり、審査員として来ていた健康栄養学科の水野尚子助手に相談しながら、レシピにできる限り忠実に調理を進めました。学生たちは水野助手から教わる調理の工夫に感心しながら、真剣に取り組んでいました。市民の方々から寄せられたレシピには、考案した際のきっかけやポイントなどが書かれており、考案者の思いを知った上で試作をすることができました。

参加した学生からは「今回の活動を通して食品ロスについて考えるきっかけになっ



た」「普段家庭で調理をする際は捨てていた部分も、工夫次第でおいしく食べることができることがわかった」などの感想が寄せられました。学科の学びや日常生活にも生きる機会となり、一人ひとりが食品ロスについて考えるきっかけとなりました。

(地域づくり考房『ゆめ』 中島 麻衣)

本学の地域連携の取り組みについて 広島国際大学および東広島市役所関係者が視察のため訪問

地域健康支援ステーション所長・スポーツ健康学科長 准教授 中島 節子

11月30日に広島国際大学研究支援・社会連携センター長様はじめ東広島市政策推進監の方々8名が視察にいらっしゃいました。今後、自治体と協働して地域貢献をしていくにあたり、松本大学の取り組みをぜひ参考にしたいと来校されました。本学もコロナ禍の影響から、昨年から視察の受け入れは0という中、感染に配慮し受け入れ、各部署の担当者から説明しました。

地域健康支援ステーションのワゴン車に機材を積み込んで出向っていく出張型のヘルスプロモーションの活動では、東広島市は農村部や島もあるため、感動されていました。収益事業、卒業生や在学生の活躍の場としての役割にも納得されていました。

「ゆめ」の活動も地域とのつながり、職員体制や学生へのかかわり方について感心されていました。また、総合経営学部長の尻無浜博幸教授から地域防災、防災土養成講座についても説明し、新設の学科の参考にしたいとのことでした。後日、センター長様より「貴学をご訪問させていただき、とてもアットホームかつ、しっかりとした地域に根差した教育理念をお持ちの大学でしたので、とてもファンになりました。」と感想をお送りいただきました。本学を注目してくださっていることは励みになり、今後もますます力を入れて活動して参りたいと思います。



実践力・人間力を備えた 教員養成をめざして



教育学部

三期生が努力でつかみ取った 今年の教員採用試験結果 延べ33名(合格率49.2%)が合格

教育学部長・教授 岸田 幸弘

2022年度(2023年度採用)公立学校教員採用試験の結果が発表されました。開設6年目の若い学部ですが、日々の授業やゼミに加え、初年次からの学校ボランティア活動、学校インターンシップ、教育実習等の学校現場体験を積み重ね、多くの三期生たちの努力が実を結びました。コロナ禍で教採対策講座も十分にはできませんでしたが、教育学部三期生が挑んだ結果は右記のとおりです。合格者29名(延べ33名)、合格率は49.2%(昨年度は52.4%)でした。今年は、特別支援学校と中学校英語に複数名の合格者が出ました。昨年度、一昨年度に教員採用試験に挑戦した一期生および二期生は、今年度の再挑戦で、小学校及び特別支援学校に10名が合格となっています。

総合経営学部・人間健康学部

現役生、卒業生ともに健闘！ 複数の免許取得者も

全学教職センター長・教授 山崎 保寿

2023年度公立学校教員採用試験の合格状況について、総合経営学部1名、人間健康学部1名が合格しました。また、卒業生では総合経営学部で1名、人間健康学部では7名が合格しました。上記の中で、高校商業については、現役生で1名、卒業生で1名の計2名が合格し、両名とも商業と情報の免許を有しています。また人間健康学部の現役合格者は、中高の保健体育の免許を取得しつつ、本学と連携している明星大学通信教育部で小学校二種の免許を取得して小学校の教員として採用されています。本学で複数の教員免許を取得した学生はその努力が実っていると言えます。

速報 2022年度(2023年度採用) 教員採用試験合格状況

【教育学部】

■ 現役生

自治体	校種	教科等	合格者数
長野県	小学校		10
	中学校	英語	2
	特別支援学校		3
新潟県	小学校		7
石川県	小学校		2
山梨県	小学校		2
富山県	小学校		1
長崎県	小学校		1
北海道	小学校		4
東京都	特別支援学校		1

他、補欠合格 4名

■ 卒業生

自治体	校種	教科	合格者数
長野県	小学校		5
	特別支援学校		4
愛知県	小学校		1

【総合経営学部】

■ 現役生

自治体	校種	教科等	合格者数
長野県	小学校		1
	高等学校	商業	1

■ 卒業生

自治体	校種	教科	合格者数
長野県	小学校		2
	中学校	保健体育	2
	高等学校	商業	1
	義務	養護教諭	1
山梨県	小学校		1
	中学校	保健体育	1

▶ 公務員採用試験結果速報 (2022年12月5日現在)

安曇野市役所2名、大町市役所1名、長野市役所3名、射水市役所1名、辰野町役場1名、生坂村役場1名、松川村役場1名、小布施町役場1名、警視庁2名、長野県警察9名、国立大学法人等職員(長野県・富山県)2名、松本広域消防局1名、陸上自衛隊1名

教育学部1年生が教育現場を体験 実践的な学びから教員としての基礎を形成

教育学部では、1年次の早い時期から、教育現場が体験できるプログラムを展開しています。現場を早期から体験することで、教員になるためにどのような資質や能力が必要かを理解し、ステップを踏みながら集大成となる教育実習に備えることができます。今回は、教育学部1年生が取り組む「学校ボランティア活動」と保育園・子どもプラザ参観についてご紹介します。

学校教育学科 准教授 佐藤 茂太郎

教員の資質と実践的指導力を養う「学校ボランティア活動」の中間報告会

教育学部1年生後期の毎週水曜日午後は、「学校ボランティア活動」という授業に取り組んでいます。この学校ボランティア活動の目的は、「教員に求められる資質を理解すること、教員としての実践的指導力の基礎を養うこと」などです。具体的には、学生が近隣の公立小学校に出向き、小学校の現場で様々な取り組みを行う活動です。例えば、子どもの安全指導に関する支援、農作業の体験補助、学習中の支援などです。全部で10回にわたり小学校で活動に取り組みます。

11月9日には、前半5回分を終えた活動中間報告会を行いました。学生たちが、自分の体験したことや学習したことを具体的に報告することができ、一人一人が学校ボランティア活動を通して大きな学びを得ていることがわかりました。この場を借りてご協力をいただいている小学校関係者の皆様に感謝申し上げます。



松本市内の保育園・子どもプラザにて就学前教育の現場を参観

12月7日、松本市内の保育園・子どもプラザに出向き、授業や子どもたちが活動する姿を参観させていただきました。この

参観の目的は、義務教育の前段階である就学前教育がどのようになされているかを知り、幼保小連携の意義などについて

の考えを深めたり、また地域社会での幅広い子育て支援のあり方を理解することでした。保育園では、子どもたちが主体的に考えて活動する姿があり、小学校入学前にもかかわらず自ら考えて行動する姿に学生たちも驚いていま



た。また、教室等の環境も子どもたちに配慮していることに気付いた学生もいました。参観後の学生のレポートの中には、保育園の先生方のよく練られた授業デザインや子どものことを慈しんでいる姿に感動したという記述がありました。



TOPICS

大学ってどんなところ? 市内小学校が松本大学を見学

9月28日に開智小学校2年生、11月11日に芝沢小学校2年生、11月16日には同小学校3年生が松本大学の見学に訪れました。建物の大きさや教室の様子、給食とは違う食堂の紹介などに驚いている子や真剣にメモをとる子がたくさんいました。質問タイムでは、好奇心いっぱいの小学生から時間内に答えきれないほど多くの質問をもらいました。また、後日届いた感想には、大きくなったら松本大学に入りたいという声もありました。コロナ禍で制限はありましたが、少しでも大学のことを知ってもらえる機会になったら嬉しいです。



下山恵子准教授(学校教育学科)とじゃんけんをして交流している様子(芝沢小学校2年生)

「飛騨高山学会」で学生と教員が発表 ～乗鞍岳でのEバイク利用の可能性と運営について～

観光ホスピタリティ学科 准教授 中澤 朋代



「～繋がるキャンパス～第4回飛騨高山学会」が12月10、11日に飛騨・世界生活文化センターにて開催されました。発表者は名古屋大学、愛知学院大学、文教大学、國學院大學等に加え、地元高校の計16校の生徒、学生、教員で、松本大学からは観光ホスピタリティ学科3年中澤ゼミの代表学生と教員が11日の自然環境分科会にて発表しました。

中澤ゼミでは本年度、乗鞍高原と平湯地域を含む乗鞍岳の観光地域づくりに着目

し、研究テーマを乗鞍岳におけるEバイクの利用の可能性と運営課題としています。今回はその中間報告で、地域の課題意識を文献調査し、乗鞍岳にEバイクで登った現地調査は特にマーケットとなる20-30代世代としての学生の感触を反映した研究です。発表の前日まで全員で内容を精査する学生達の姿はとて熱心で、発表前後に多くの質問が寄せられ、議論が深まりました。動画配信記録も学会のWEBサイトに掲載されていますので、ぜひご覧ください。

山田一哉教授が 「全国栄養士養成施設協会」から表彰



大学院健康科学研究科長・健康栄養学科の山田一哉教授が、一般財団法人全国栄養士養成施設協会から教員顕彰者として表彰されました。この表彰は、全国栄養士養成施設協会の会員である栄養士・管理栄養士養成施設に長年勤務し、教育に多大な貢献をされた教員に対し、その業績を称えて表彰状が授与されるものです。

山田教授は、長年にわたり「生化学」「生化学実験」等の授業を担当し、多数の栄養士・管理栄養士の養成に尽力されました。また、2017年度より大学院健康科学研究科の研究科長として大学の管理・運営にも大きく貢献されています。11月16日、人間健康学部教授会の冒頭にて菅谷昭学長より表彰状が手渡されました。

本学にて「アジアキリスト教交流史研究会」を開催 研究者が集い、活発な議論が展開

大学院総合経営研究科・総合経営学科 専任講師 岡崎 滋樹

去る10月22日、本学を会場に「アジアキリスト教交流史研究会」が開催されました。アジアキリスト教交流史研究会は、日本国内だけでなく、広く中国や韓国などの研究者も集い、歴史的テーマに関する議論を通

じて、国境を越えた深い交流を続けてきました。本研究会に所属される先生方の御厚意もあり、今回はじめて松本大学で開催することとなりました。

久々の国際的な会議の開催ということで、



コロナ感染予防対策を徹底しながら、対面とオンライン配信(ZOOM)を併用したハイブリッド形式で実施しました。オンラインでは、韓国やカナダなどとも繋ぎ、久々の交流ということで皆の喜びが溢れ、活発な議論がな

されました。また今回は、立命館大学の学生による極めて優れた研究報告もあり、若手研究者の活躍が新しい風を吹き込み、今後の研究会のさらなる発展に繋がる有意義な会議となりました。翌日は、松本市内と安曇野市内でスタディツアーも行き、信州の産業や満蒙開拓団の歴史にも触れ、短い時間ではありましたが収穫の多い内容となりました。

争いが絶えない激動のグローバル社会の中で、私たちには、隣国・地域に対する深い理解を示し、友好関係を構築することが求められています。今後も、こうした本学での国際的な活動などを通じて、とくに若い世代の理解・交流が深まるよう尽力してまいります。急に気温が下がり、肌寒さを感じる中、福岡県など遠方からお越しいただいた先生も多く、運営担当としてあらためて心より御礼申し上げます。

当日の研究報告のテーマ

- 佐藤飛文先生(明治学院中学校・東村山高等学校教員) …… 「朝鮮開化派たちの日本留学と東京一致英和学校」
- 水谷尚子先生(明治大学商学部准教授) …… 「近年の正教会に関する中国語刊行物について」
- 寺田百花さん(立命館大学経済学部学生) …… 「近江兄弟社及びW.M.ヴォーリス研究の動向について」

日本薬理学会の共催セミナーにて 「ナノレベルでの空間洗浄の考え方」について講演

大学院健康科学研究科・健康栄養学科 教授 弘田 量二

12月2日、パシフィコ横浜で開催された、第96回日本薬理学会年会プログラム株式会社トゥーコネクととの共催セミナー「室内空気環境の評価とその処方箋Airdogによる

職場環境改善の実践」において、空気清浄機を使った理想的なアレルギー予防方法の提案や、職場室内のほこり、バクテリア、カビ、などやにおいの除去による労働環境改善の実践例を報告しました。一例に、卒業生の藤池真里那さん(健康栄養学科2022年3月卒業)が実験に協力した結果も発表しました。

新型コロナウイルス感染拡大が懸念される中、完全対面で開催さ

れた会場は、連日3,000人を超す大盛況となりました。本学では、空気中のほこりやウイルス除去のため3台のAirdog X8が導入され、人が集まる場所には、必ずと言っていいほど、換気と空気洗浄機が必要な時代となりました。この流れは、新型コロナウイルスがいなくなっても続いていくでしょう。感染対策を徹底していくことで、教室内のCO₂濃度を下げることや、飛び込んできた花粉も減らすことにつながり、学習効果の向上や花粉症軽減効果が期待されます。空気は買うものという認識が必要なのかもしれません。



大学院生の倉澤さんが調査結果を英語ポスターで発表

東京フォーラムで開催された「第22回国際栄養学会」に、大学院健康科学研究科1年の倉澤里奈さん(弘田研究室)が、「勤労世代でうまくストレス解消できない人は、ストレス解消できている人に比べて、ストレス食いで過体重になる人が1.7倍多い」という疫学調査結果を英語ポスターで発表しました。新型コロナウイルス感染症対策のため、ポスター掲示はオンラインだけとなり、代わりに設けられた議論用スペースで、来場者に声をかけて懸命に説明しました。倉澤さんから次のような感想がありました。今回、様々な人種、外国語が飛び交う会場で、国際学会の雰囲気を楽しむことができました。自分の研究成果を世界の人に知ってもらおう研究の面白さを皆さんにもお伝えできたら幸いです。



松本市内を巡り、実地調査 総合経営学科1年生によるグループワーク発表会

総合経営学科長 教授 清水 聡子

総合経営学科1年生は、松本大学学園祭“梓乃森祭”の当日、10月15日に基礎ゼミナールIIによるグループワーク(GW)実習を行いました。兼村クラス、三浦クラス、宇都クラス、清水クラスの各クラス4~5チーム、計17チームは各チームごとにテーマを設定し、事前学習をもとに松本大学周辺や松本市内を巡り、実地調査を行いました。

実地調査後、学生は発表原稿をまとめ、11月1日に各クラスで発表会(地区予選)を実施しました。短期間でのGW、まとめ、プレゼンテーションであったにもかかわらず、各チームともに発表内容は素晴らしく、学生の投票でクラス代表を決定しました。

11月8日、クラス代表によるグループワーク発表会(決勝戦)を行いました。兼村クラス

は「ぶらり浅間温泉」、三浦クラスは「松本の観光とまちづくりへの提案」、宇都クラスは「松本歴史の里に行ってきました」、清水クラスは「松本の景観的特徴」を発表時間10分、質疑応答5分の計15分で行いました。

宇都専任講師が作成した「評価フォーム」により、発表の面白さ、題材のユニークさ、説明のわかりやすさ、スライドの完成度、発表したグループへのコメントを学生が記入し、投票が行われ、兼村クラスの「ぶらり浅間温泉」が優勝しました。クラス代表として臨んだプレゼンテーション、充実した発表会となりました。観光ホスピタリティ学科の益山代利子教授、事務職員からアドバイスや質

問もありました。

松本大学の教育手法である地域と連携した実践型教育は、地域社会の現場で学ぶ授業形式「アウトキャンパス・スタディ」を取り入れ、学生の主体的な学びを養成します。学生が地域課題を発見し、課題解決に向けた地域への提案を期待しています。



卒業後の希望する進路の実現に向けて キャリア教育とキャリア支援の両面から個別サポート

2022年度インターンシッププログラム成果発表会 約70名の学生がインターンシッププログラムに参加 発表会も活況に沸く インターンシップ推進委員長・教授 上野 隆幸

去る10月15日に大学祭のプログラムの一環として、松本大学インターンシッププログラム成果発表会が開催されました。会場には松本大学インターンシッププログラムに参加した学生約70名の他に、学部1・2



年生を中心とした一般学生、さらには教職員も参加し、教室が参加者であふれかえるほどの盛況ぶりでした。当日はプログラム参加者の中から8名が代表として、自らの体験や学び得たことをプレゼンテーションしました。

本学のインターンシッププログラムは、キャリア教育の充実を目指して、2019年度から始まった取り組みで2019年度は40名を超える学生が参加しましたが、2020年

度は新型コロナウイルス感染症の影響により全面中止となり、また2021年度も約20名の参加に止まりました。今年度のプログラムでは70名を超える学生が参加しており、文字通り、プログラム始まって以来の最大規模での展開となり、発表会も大変活況に満ちておりました。

学生の発表を聞いていると、学生が本プログラムを通じて大きく成長したことがうかがえます。自分は今後何をしたいのか、自

分の強みは何か、自分の弱みは何か、などの明確な気づきの他にも、小さなことかもしれませんが、日々の取り組みの中で新たな発見や気づき、そして様々な反省が目につきました。これらは学生の成長の証でもあり、また今後の自らのキャリア形成にきっと役立つものと信じております。実際、企業等のご担当者様からも学生に対する大きな期待やお褒めの言葉を頂戴することができました。

最後となりますが、学生を受入れて頂いた企業、自治体、団体等の皆様、さらに実際に学生に対するご指導を賜りました御担当者の皆様に、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

2022年度主なインターン先

- ・NTP トヨタ信州株式会社
- ・安曇野市役所
- ・株式会社パナホーム長野中央
- ・伊那ゆいま〜る
- ・株式会社松本山雅
- ・長野県障害者福祉センター
- ・株式会社池の平ホテル&リゾート
- ・大日本法令印刷株式会社 等

保護者就職説明会 3年ぶりに対面で実施 就職活動に対する 関心の高さを実感

キャリアセンター 課長 中村 礼二

11月5日に学部2・3年生の保護者を対象に、「保護者就職説明会」を開催しました。保護者就職説明会を全学部揃って対面で実施するのは3年ぶりのことであり、またコロナ禍で今後の就活状況を心配する保護者も多く、当日は230名近い保護者の方が参加し実施することができました。第1部では、ここ最近の就職活動の流れやト

レンド、本学の就職支援、保護者の方への関わり方など就職活動全般に関する説明を行い、第2部の分科会では、学部・学科それぞれの就職支援や就職実績、教員採用試験の状況などについて説明を行いました。また、学部4年生による内定者報告も実施し、自分の子供と年齢の近い学生の話に熱心に耳を傾けている保護者の方も

多くいました。説明会の時には緊張感もあり質問をためらっていた保護者の方も、説明会が終わってからは、教職員や学生スタッフへ気さくに質問をしている方もいて、こういった対



面で保護者の方と接するような機会を設けることの重要性を改めて認識しました。

11月26日には、松商短期大学部1年生の保護者を対象に「保護者就職説明会・個別相談」を開催し、約60名の方にご参加いただきました。説明会後には、希望者による所属セミごとの個別相談も実施しました。熱心にメモを取る様子から就職活動に対する保護者の方の関心の高さがうかがわれました。学生の就職活動が順調に進むよう、これからも全学をあげて就職支援に努めていきます。

2年ぶりに海外留学が本格再開 留学を経験した学生たちの声

新型コロナウイルスの影響により2年間停滞していた海外留学がようやく再開されました。本学教育学部では今夏、マルタ共和国へ4週間にわたる語学研修旅行が再開されました。更に、大学間交流協定を結んでいるオーストラリアのニューカッスル大学、チェコ共和国のパルドゥビツェ大学、韓国の東新大学へ

の長期留学も実施されています。また、インドネシアのプレジデント大学との提携協議では県内の企業も交えた交流活動が期待されています。語学の習得に加えて海外に拠点を持つ企業研修なども本学の海外留学の特徴となりそうです。留学した4名の学生たちの現地での様子をご紹介します。

国際交流センター運営委員長・観光ホスピタリティ学科 教授 益山 代利子

村松 諒佳さん

(観光ホスピタリティ学科3年)

チェコ共和国/パルドゥビツェ大学
留学期間：約5カ月間 (2022年9月～2023年2月)

中学校の英語の授業がきっかけで、ずっと留学してみたいと考えていました。現地の学校では、少人数クラスで参加型の授業が多く、英語のほかにチェコ語の勉強も始めました。難しく理解できない時もありますが、先生や仲間に助けをもらいながら授業の内容も理解して進めることができている。授業がある日は、授業後に図書館に寄って勉強をしています。



日常生活においては、日本食がお寿司しかないの、自炊をすることが多く主に日本食を作っています。また、珍しい食材も多いので、あえて翻訳機にかけずに挑戦し、現地の食を楽しんでいます。

今回の留学を通して、人目を気にするのではなく、自分から行動できるようになりました。言葉が通じなくても現地の人と交流はできますが、英語が話せるだけでもっと世界が広がると感じました。この体験を卒業論文や卒業後にも活かしていきたいです。

有賀 香乃さん

(観光ホスピタリティ学科3年)

チェコ共和国/パルドゥビツェ大学
留学期間：約5カ月間 (2022年9月～2023年2月)

在学中に一度は留学を経験してみたいと思っていました。また、日本と海外の違いや日本にはわからないことを外からの視点で知りたかったからです。

こちらでの過ごし方は、バイトやワークショップのようなイベントに参加したり、現地の学生と街中を散歩したりと、楽しく過ごしています。

大学の授業は、6、7人ほどの少人数授業なので授業のテンポが速いですが、間違いを恐れない学生が多いので気軽に発言できる環境だと感じています。チェコ語を学ぶ授業では、世界一難しい発音 r や名詞が性別分けされていたり、発言者の性によって文法が変化したり、日本語にはない特徴が多く日々奮闘しています。また「郷に入っては郷に従え」なので英語よりもチェコ語を優先して勉強しています。

留学して日本と異なる文化を肌で感じられ学ぶことが多いです。帰国後は、この留学の経験を今後の糧とし、海外や言語教育とつながりのある職種を視野に就職活動をしていきたいです。



石崎 楓さん

(学校教育学科3年)

オーストラリア/ニューカッスル大学
留学期間：約1年間 (2022年4月～2023年3月)



多国籍国家であるオーストラリアで世界的問題に目を向けていきたいという考えから留学を決めました。

授業のある日は毎朝9時30分に家を出てバスに乗り通学して

います。最近は昼休みにタイの友達と大学のイベントに参加したり、放課後、友達と図書館で勉強をするなど充実した日々を過ごしています。学生参加型の授業の中、私は「自分の意見を正確に伝えること」を一つの目標としディスカッションやスピーキングに力を入れて勉強をしています。

セメスター間の2週間の休暇では、別の州に3～4日程度の旅行に出かけ、自分の住んでいる州との違いについて学びました。他には地域のボランティア活動に参加しています。

留学を経験して、自分軸を持つことが出来ました。周りの優秀な留学生と比べることばかりせず、自分のすべきことを見直しながら進む生活が自分軸を育てた一つであると考えます。帰国後は英語教職課程の勉強に力を入れ、留学で学んだオーストラリアの異文化理解や英語を大学での論文作成や教育実習に生かしたいです。

武井 結香さん

(松商短期大学部2年)

韓国/東新大学
留学期間：約4カ月間 (2022年9月～2022年12月)

中学生の時にK-POPIにはまり、独学で韓国語の勉強を始めました。松商短大入学後、韓国語の授業や異文化コミュニケーションの授業で現地の方と話す機会があり、教えてもらった文化や言語についてもっと学んでみたいと思い留学しました。

留学先では、東新大学内にある学生寮で生活しています。大学の敷地がとても広いので、学外に出るまでに歩いて20分ほどかかるので、そこは少し大変です。

授業では、韓国語の語彙・文法や聞き取り・書き・読みを主に勉強しています。私以外の学生が中国人学生なので、コミュニケーションをとるのがなかなか難しいですが、今のところは不便なく進められています。韓国は、日本よりも交通費が安く移動できるので、気軽に旅行ができるので、便利だと感じています。



趣味でやっていたことの延長で留学をしましたが、自分の趣味の時間を充実させたり大学の授業で習った異文化コミュニケーションに役立てられればと思っています。

新たな景色が見えた「第56回梓乃森祭」

全学学生委員長・スポーツ健康学科 教授 岩間 英明

昨年度の学報『蒼穹』の大学祭についての記事は「来年こそ、さわやかな信州の秋風の中で多くの人々が笑顔で集う梓乃森祭が開催されることを祈りましょう。」と結びました。この3年間、梓乃森祭は台風、コロナとどこにも訴えようのない事由で制限されてきました。そのため、短大生、学部生を問わず、フルバージョンの規模の大学祭を未経験のまま卒業になってしまうのかと心配しておりましたが、今年度はようやくフルサイズ(2日間)の開催ができました。とは言ったものの、一般公開、飲食提供の模擬店の出店中止と、かつての規模からすればやはり寂しさは禁じ得ないものでした。

コロナ感染によりいつ全面中止となってもおかしくない状況の中、開催直前まで何ができて、何ができないのか予想もつかない状況でしたが、従来通りの2日間開催を



模索した学祭局メンバーの奮闘ぶりは特筆すべきものがありました。誰も梓乃森祭の経験がなく、頼れる人がいない状況でありながら、1年生、2年生の多い今年度の学祭局メンバーは、互いに知恵を出し合い、問題を一つ一つクリアしながら、過去にとらわれない新しい発想の梓乃森祭を企画・運営してくれました。過去に類を見ないような多くのアカデミックな発表展示、参加型発表など、これまでにない新しい景色が学内のあちこちで見られたのは、彼らの工夫と熱意の賜物であったと思います。

来年度、どのような梓乃森祭になるのかわかりませんが、今年の経験を活かし、さらなる発展を期待できると考えているのは私だけではないと思います。学祭局メンバー、参加した学生、教職員の方々に感謝申し上げるとともに、『来年こそ!!』を祈念して…。



フィナーレを飾った花火大会



経験を今後に生かして

今年度は3年ぶりに梓乃森祭を対面で行うことができました。そして「Next Innovation」をテーマに、多くのゼミや教職員の方々に参加や協力をしていただきながら、良い梓乃森祭にすることができ、大変嬉しく思います。今後も、梓乃森祭をさらに良いものにできるよう、頑張りたいです。



学友会学祭局 局長
植木 滉士
(総合経営学科1年)



バラエティ豊かな展示が多く並びました



学長賞受賞おめでとう!

学長賞は、学術・芸術・社会・体育・文化活動等において他の模範となる成績を収め、地域や全国での卓越した活動が社会的に高く評価された個人または団体に贈られる賞です。授賞式は、「第56回梓乃森祭」オープニングセレモニーの中で行われ、今年度は、1団体が受賞しました。

第13回(2022年度)学長賞受賞者

平和創造研究会(社会活動)

平和について考える機会を創出し、若者世代からの平和文化の創造と発信に寄与。



学内限定のハロウィンイベントを開催

10月31日、11月1日の2日間にわたり、学友会が企画したハロウィンイベントが開催されました。学内で仮装している学友会役員を見つけて声を掛けるとお菓子がもらえたり、構内に写真撮影スペースを設置しました。休み時間に多くの学生が仮装している学友会役員に声を掛け、イベントを楽しんでいました。



毎秋恒例! 焼き芋大会を開催

12月12日に多目的グラウンドにて、秋の風物詩「焼き芋大会」が学友会主催で開催されました。焼き芋用の落ち葉は、総務課施設管理の職員が構内の落ち葉を集めて保管し、この日のために準備してくれたものです。寒空の下ではありましたが、ほくほくの美味しい焼き芋ができあがり、順番待ちをしていた学生たちは笑顔で受け取っていました。感染対策に配慮しつつみんなで旬の味覚を味わいました。



News & Topics

松本マラソン2022に「マザーMIZUNOのスティックおやき」が提供される

11月13日に松本市内で開催された「松本マラソン2022」にエア・ウォーター東日本株式会社と本学とコラボレーションして商品化した「マザーMIZUNOのスティックおやき」がエア・ウォーター東日本㈱より提供されました。選手の方が手軽に食べやすいように通常サイズの半分にし、味はキーマカレーとあんこの2種類が用意されました。参加された選手の皆さんのスタミナ補給の一助となっていれば幸いです。

本学の職員や陸上競技部の学生も参加し、マラソンの部・男子では、池田悠司さん(総合経営学科4年)が4位、女子では、白田彩花さん(健康栄養学科1年)が5位に入賞しました。参加された選手の皆さん、本当にお疲れさまでした。



諏訪清陵高校2年生の研究をサポート 広告効果の検証方法をアドバイス

この夏、諏訪清陵高等学校2学年から授業への協力依頼を受け、本学入試広報室が協力しました。これは、同校の「総合的な探究の時間」の授業において生徒が設定したテーマのひとつに「広告の効果」があり、その調査・検証について協力をを行うというものです。主な研究内容としては、広告の掲示方法を変えることにより、見た人の印象の違いを検証したい、ということでした。これまで2回にわたり本学でミーティングを行い、松本大学の広告および広報制作物に関する情報交換や、広告効果測定のための



検証方法等をアドバイスしました。今後は調査・検証の結果を校内で発表する予定のとことですので、少しでも探究のヒントになればと思っています。本学としても、現役高校生から見た大学の広告に関する意見を聞くことができ、今後の広報活動に役立てていきたいと思っています。

学内でワークショップを開催 就活を前に自分の生き方から考えてみよう

11月16日、本学を会場にながの人事室(NPO法人MEGURU)と松本大学キャリアセンターの共催で「生き方学生ラボ」と題し、就職活動をはじめ前に自分のこれからの生き方を考えるワークショップを実施しました。当日は12名の学生が参加し、バリューカードを使ったディスカッションを行いました。また、自分なりの生き方を追求し、暮らしも仕

事も充実させている草野エリ氏(シビック・イノベーション拠点スナバ運営チーム)と古畑里奈氏(COMILY代表)をゲストにお招きし、講演もいただきました。学生からも好評だったため、定期開催も視野に入れていきたいと思っています。



卒業生が電話対応コンクール全国大会で優秀賞

ビジネスにおける電話対応の日本一を決める、公益財団法人日本電信電話ユーザ協会主催の「第61回電話対応コンクール全国大会」が11月18日、山口県を会場に開催され、本学卒業生の原和見さん(健康栄養学科2019年度卒/株式会社大和生物研究所)が、6,620名が参加した予選を勝ち抜き、代表選手57

名に選ばれ全国大会に出場しました。その結果、優秀賞(上位20名)という見事な成績をおさめました。電話対応は、企業の印象を決める重要な業務です。卒業生の社会における活躍の幅はさまざまですが、卒業生の活躍は在学生にとって目標や希望であり、教職員の励みでもあります。

他にも次のような出来事がありました。

- 12月17日のSBC信越放送「ZOOM UP エコロジー最前線」に健康栄養学科の矢内和博准教授が市田柿の「皮」に着目し開発した新商品等について紹介されました。
- 12月18日、本学主催で「第29回中农信地区団体戦親睦囲碁大会・第19回松本大学『ヒカルの碁』少年少女囲碁大会」を開催し、小学生から90代まで幅広い年齢層の方が約100名参加し、囲碁を通じて交流を深めました。

クラブ活動情報

男子サッカー部

本学から初のJリーガーが2名同時に誕生 合同記者会見で決意を語る

男子サッカー部所属の濱名真央選手(スポーツ健康学科4年)が松本山雅FCへ、また、青木安里磨選手(観光ホスピタリティ学科4年)がAC長野パルセイロへ、それぞれ加入が内定し、12月16日に合同記者会見を行いました。本学より初のJリーガーを2名同時に誕生させることができ、それも県内の両Jクラブに輩出できたことは、信州のサッカー文化に少しは恩返しできたのではないかと考えています。県内出身で松商学園高校出身の“純長野県産選手”の青木選手も会見の中で触れていましたが、彼らの活躍する姿を見た県内の子どもたちがプロサッカー選手を目指すモチベーションとなり、また今後の県内における選手育成の一つのモデルとなることを期待しています。

会見当日は、多くの報道関係者が訪れ、新聞各紙や報道番組等で取り上げていただき

ました。また、松本山雅FCから鐵戸裕史育成部長、AC長野パルセイロからは町田善行代表取締役社長、本学からは菅谷昭学長に出席していただきご挨拶をいただきました。両選手からは、これまで関わっていただいた方々への感謝の気持ちや、プロ入り後の決意が力強く語られました。

創部当初から思い描き、その当時からスタッフ間で夢物語のように語ってきたこの日を、ついに迎えることができました。共に高いポテンシャルを秘めた選手ではありませんが、彼らがこの先プロの世界で活躍するためには成長し続けなければなりません。し



かし、来シーズンからアルウィンで、あるいは長野Uスタジアムで彼らの姿が見られることを想像してみると、今からワクワクしてきます。

「マオ、アリマ、本当の勝負はここからだよ。遠慮せず、突き抜けろ!!」

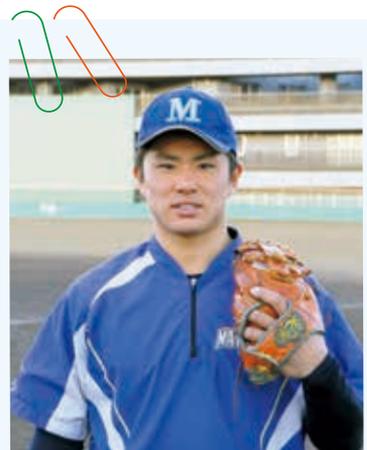
(男子サッカー部 部長兼監督 齊藤 茂)

硬式野球部

秋季リーグ戦を振り返って 2年生の渡邊嵩馬が最多盗塁賞を獲得

関甲新学生野球連盟1部秋季リーグ戦が終了しました。結果は5勝4敗の同率4位という成績でした。春のシーズンに比べチーム打率が、252まで上がり(春.208)、数字上の成長は感じましたが、勝ち切らなくてはいけない試合を終盤に逆転されるなど、まだまだ勝負強さが足りないと感じるシーズンでした。そのなか2年生の渡邊嵩馬選手(観光ホスピタリティ学科2年)が、盗塁部門でタイトルを獲得し、1部リーグの中でも通用するプレーができる選手が出てきたことはチーム全体の励みになります。来シーズンに向けて、これから始まる冬季期間にしっかりと地力の底上げをしていきます。沢山の応援、誠にありがとうございました。

(硬式野球部 監督 清野 友二)



中村泰雅選手が、 信濃グランセローズに入団決定!

硬式野球部中村泰雅選手(観光ホスピタリティ学科)が2023年から信濃グランセローズに内野手として入団することになりました。独立リーグのレベルも近年大幅に上がっており、NPBの世界で活躍する選手も増えてきました。本人もまずNPBを目指して頑張りたいと目標定めています。皆さま、応援のほど、よろしく願いいたします。

関甲新学生野球連盟 秋季1部リーグ戦勝敗表

順位	大学名	上武	白鷲	平成国際	松本	新潟医療	常磐	山梨学院	関東学園	作新学院	新潟	勝	負
1	上武	-	○4-0	○12-4	○8-2	○7-6	○10-2	○9-4	○10-1	○7-6	○6-1	9	0
2	白鷲	●0-4	-	○2-1	○6-1	●1-2	○7-2	○1-0	○4-0	○6-1	○3-2	7	2
4	平成国際	●4-12	●1-2	-	●4-5	○5-4	○14-1	●1-5	○6-0	○1-0	○7-1	5	4
5	松本	●2-8	●1-6	○5-4	-	○4-0	○7-6	●3-4	●2-3	○6-1	○14-1	5	4
6	新潟医療	●6-7	○2-1	●4-5	●0-4	-	○4-3	●2-3	○5-0	○1-0	●6-7	4	5
10	常磐	●1-10	●2-7	●1-14	●6-7	●3-4	-	●0-12	●2-8	●0-1	●3-4	0	9
3	山梨学院	●4-9	●0-1	○5-1	○4-3	○3-2	○12-0	-	○30-1	●0-3	○8-5	6	3
7	関東学園	●1-10	●0-4	●0-6	○3-2	●0-5	○8-2	●1-30	-	○3-0	●0-1	3	6
8	作新学院	●6-7	●1-6	●0-1	●1-6	●0-1	○1-0	○3-0	●0-3	-	○8-5	3	6
9	新潟	●1-6	●2-3	●1-7	●1-14	○7-6	○4-3	●5-8	○1-0	●5-8	-	3	6

※同率の場合は前季順位により決定(本学は4位の平成国際大学と同率でした)

スキー部

宮嶋林湖さん(スポーツ健康学科1年) スキージャンプ女子W杯で9位

11月6日、ポーランドのピスワで開催されたスキージャンプ女子のW杯開幕戦で、宮嶋林湖さん(スポーツ健康学科1年)が第1戦で28位、続く第2戦では9位となり、W杯初参戦で2戦連続でのポイントを獲得(30位以内に入ることFISポイントを獲得できます)、さらには世界のトップ10入りを果たしました。宮嶋さんは高梨沙羅選手や伊藤有希選手らと共に、今シーズンからW杯メンバーに選出されており、日本のスキージャンプ女子の次世代を担う若手として期待されています。

少し先の話ではありますが(しかしあつという間にやってきます!)、宮嶋さんは2026年に開催される冬季オリンピック出場、さらにはメダル獲得を目指して頑張っていきます。本学初のメダリストを輩出すべく、皆様ご声援をよろしくお願いいたします。(スキー部 部長 齊藤 茂)



試合後に一時帰国した本人からのコメントです。

W杯2戦目でトップ10入りできたことは素直に嬉しく、幸先の良いスタートを切ることができました。今シーズンは初めてのW杯転戦となりますが、ビックジャンプをして表彰台に上られるように頑張ります。是非応援をよろしくお願いいたします!

ソフトテニス部

秋の北信越選手権大会で 優勝・準優勝の快挙!



10月14日~16日にかけて、富山県にて、北信越学生ソフトテニス大学対抗及び選手権大会が開催されました。大学対抗においては、男子は3部

優勝2部昇格、女子は2部優勝1部昇格を果たしました。個人戦の選手権大会では、男子が優勝、準優勝を勝ち取りました。北信越学生ソフトテニス選手権大会で本学のソフトテニス部が優勝したことは初めてのことであり、同大会で松本大学の選手同士が決勝戦を戦うということは、思いもよらないことでした。ましてや3部校が1部校を軒並み倒して、優勝、準優勝を果たしたことは前代未聞のことと言えます。また、女子の成績もこれまでの部の歴史で最も良い成績でした。今回の成果は、チーム全体にとっても大きな自信となり、今後の活動に対してもより良い刺激になりました。この秋の北信越大会をもって役員交代が行われ、今後は、現3年生以下によるチーム編成となりますが、新たな選手の活躍を期待しています。引き続き、応援のほど、よろしくお願いいたします。

(ソフトテニス部 部長 中島 弘毅)

北信越学生ソフトテニス選手権大会【男子の部】

【優勝】西澤優希(スポーツ健康学科4年)・白井冬蒼(総合経営学科4年)
【準優勝】藤森明(スポーツ健康学科3年)・橋詰翼(健康栄養学科2年)
【ベスト16】三井太陽(スポーツ健康学科2年)・伊藤颯太(スポーツ健康学科1年)

北信越学生ソフトテニス選手権大会【女子の部】

【ベスト4】西澤英玲奈(スポーツ健康学科4年)・宮澤晃未(観光ホスピタリティ学科3年)
【ベスト8】櫻井莉子(スポーツ健康学科1年)・丸山愛稀(スポーツ健康学科1年)

アンサンブルsolae

日頃の練習の成果をステージで披露 松本市芸術文化祭に出演

松本大学アンサンブルsolaeは11月3日に松本市音楽文化ホールで開催された松本市芸術文化祭に出演しました。高山雪先生の指揮と横山桐子さん(学校教育学科3年)、湯澤ののかさん(学校教育学科2年)のピアノ伴奏で、佐藤賢太郎(作詞/作曲)「花火と月と」、谷川俊太郎(作詞)・信長貴富(作曲)「言葉は」の2曲の合唱を披

露しました。また、信州大学混声合唱団と交流練習を重ね、合同合唱団として「群青」「鷗」の2曲も演奏しました。会場に集まった沢山のお客様から拍手をいただき、日頃の練習の成果を発揮することができたと思います。2023年2月19日には松本市音楽文化ホールで第4回定期演奏会を開催する予定です。お



客様に素晴らしいハーモニーをお届けできるよう、団員一同がんばって練習しています。入場無料(事前予約制)です。ぜひお越しください。*新型コロナウイルス感染症拡大状況により、変更になる場合があります。

(アンサンブルsolae 部長 大蔵 真由美)

秋季体育大会の代替イベントとして松商短大クイズ大会を開催

松商短期大学部では例年、学友会体育局の役員が中心となり7月と11月に体育大会を実施していますが、11月28日に予定していた秋季体育大会は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止となりました。そこで、代替イベントとして同日、ゼミ対抗のクイズ大会が行われました。体育大会の開催は叶いませんでしたが、学友会役員みんなでアイデアを出しながら一生懸命に準備しました。学生たちもイベントを盛り上げようと出題されたクイズにゼミ内で相談しながらみんなで楽しそうに答えていました。



2023年度 入試日程

■ 総合経営学部（総合経営学科／定員90名、観光ホスピタリティ学科／定員80名）

選抜区分	募集人員		会場等	出願期間（必着）	試験日	合格発表日
	総合経営	観光ホスピタリティ				
一般選抜A（全学共通）	20	15	松本大学・長野・新潟・甲府・高崎 松本大学	1月 3日（火）～ 1月 27日（金）	2月 4日（土） 2月 5日（日）	2月 15日（水）
一般選抜B（全学共通）	3	3	松本大学	2月 6日（月）～ 2月 17日（金）	2月 24日（金）	3月 2日（木）
一般選抜C（全学共通）	2	2	松本大学	2月 24日（金）～ 3月 9日（木）	3月 13日（月）	3月 15日（水）
大学入学共通テスト利用選抜Ⅰ期	8	6		1月 3日（火）～ 2月 3日（金）		2月 15日（水）
大学入学共通テスト利用選抜Ⅱ期	2	2		2月 6日（月）～ 2月 21日（火）		3月 2日（木）
大学入学共通テスト利用選抜Ⅲ期	2	2		2月 24日（金）～ 3月 9日（木）		3月 15日（水）
外国人留学生選抜後期	若干名	若干名	松本大学	2月 6日（月）～ 2月 17日（金）	2月 24日（金）	3月 2日（木）

■ 人間健康学部（健康栄養学科／定員70名、スポーツ健康学科／定員100名）

選抜区分	募集人員		会場等	出願期間	試験日	合格発表日
	健康栄養	スポーツ健康				
一般選抜A（全学共通）	14	17	松本大学・長野・新潟・甲府・高崎 松本大学	1月 3日（火）～ 1月 27日（金）	2月 4日（土） 2月 5日（日）	2月 15日（水）
一般選抜B（全学共通）	3	3	松本大学	2月 6日（月）～ 2月 17日（金）	2月 24日（金）	3月 2日（木）
一般選抜C（全学共通）	若干名	2	松本大学	2月 24日（金）～ 3月 9日（木）	3月 13日（月）	3月 15日（水）
大学入学共通テスト利用選抜Ⅰ期	10	10		1月 3日（火）～ 2月 3日（金）		2月 15日（水）
大学入学共通テスト利用選抜Ⅱ期	3	2		2月 6日（月）～ 2月 21日（火）		3月 2日（木）
大学入学共通テスト利用選抜Ⅲ期	若干名	2		2月 24日（金）～ 3月 9日（木）		3月 15日（水）

■ 教育学部（学校教育学科／定員80名）

選抜区分	募集人員		会場等	出願期間	試験日	合格発表日
	学校教育	各学科				
一般選抜A（全学共通）	20		松本大学・長野・新潟・甲府・高崎 松本大学	1月 3日（火）～ 1月 27日（金）	2月 4日（土） 2月 5日（日）	2月 15日（水）
一般選抜B（全学共通）	2		松本大学	2月 6日（月）～ 2月 17日（金）	2月 24日（金）	3月 2日（木）
一般選抜C（全学共通）	2		松本大学	2月 24日（金）～ 3月 9日（木）	3月 13日（月）	3月 15日（水）
大学入学共通テスト利用選抜Ⅰ期	10			1月 3日（火）～ 2月 3日（金）		2月 15日（水）
大学入学共通テスト利用選抜Ⅱ期	2			2月 6日（月）～ 2月 21日（火）		3月 2日（木）
大学入学共通テスト利用選抜Ⅲ期	2			2月 24日（金）～ 3月 9日（木）		3月 15日（水）

■ 松商短期大学部（商学科・経営情報学科／各学科 定員100名）

選抜区分	募集人員		会場等	出願期間	試験日	合格発表日
	商	経営情報				
一般選抜A	6	6	松本大学・長野・新潟・甲府・高崎	1月 3日（火）～ 1月 27日（金）	2月 4日（土）	2月 15日（水）
一般選抜B	2	2	松本大学	2月 15日（水）～ 3月 5日（日）	3月 8日（水）	3月 15日（水）
一般選抜C	2	2	松本大学	3月 7日（火）～ 3月 17日（金）	3月 22日（水）	3月 24日（金）
大学入学共通テスト利用選抜Ⅰ期	6	6		1月 3日（火）～ 2月 3日（金）		2月 15日（水）
大学入学共通テスト利用選抜Ⅱ期	2	2		2月 15日（水）～ 3月 6日（月）		3月 15日（水）
大学入学共通テスト利用選抜Ⅲ期	2	2		3月 7日（火）～ 3月 17日（金）		3月 24日（金）

■ 松本大学大学院/健康科学研究科（博士前期課程・博士後期課程）

選抜区分	募集人員		会場等	出願期間	試験日	合格発表日
	博士前期	博士後期				
選抜Ⅱ期（一般学生、学内推薦、社会人）	3	1	松本大学	1月 3日（火）～ 1月 27日（金）	2月 5日（日）	2月 15日（水）

■ 松本大学大学院/総合経営研究科（修士課程）

選抜区分	募集人員	会場等	出願期間	試験日	合格発表日
選抜Ⅱ期（一般学生、学内推薦、社会人）	2	松本大学	1月 3日（火）～ 1月 27日（金）	2月 5日（日）	2月 15日（水）

詳しくはホームページでご確認いただくか、入試広報室までお問い合わせください。

www.matsumoto-u.ac.jp ☎0120-507-200

2022年度「松本大学防災士養成研修講座」のお知らせ

【開催日】2/11⁺ 2/12^日

【申込期間】12月15日（木）～1月15日（日）※定員になり次第締め切り

【会場】松本大学5号館

【資格取得試験】2月12日（日）講義終了後、16時40分～

お問合せ先

松本大学防災士講座事務局 **0263-48-7200**

新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況により、中止・変更となる場合があります。

詳しくは 本学ホームページをご確認ください▶



松本大学は長野県唯一の防災士養成研修講座認定機関として、NPO法人日本防災士機構の認定を受けており、講座終了後は防災士資格取得試験の受験資格が得られます。

編集後記

年末年始の準備を促すものがそここに現れるこの時期になると、「来年の干支」が話題になります。

干支というと、子、丑、などの十二支を指すことが増えてきましたが、本来は「十干十二支」を略した言葉。十干（甲、乙、丙、丁、戊、己、庚、辛、壬、癸）と十二支を組み合わせたものが干支になります。来年の組み合わせは「癸卯（みずのと）」。物事の終わりと始まりを意味する「癸」と跳ね上がる「卯」で、これまでの努力が実を結び、勢いよく飛躍する年になるといわれています。今年もコロナ禍の暗い話題が多い一年でしたが、来年は新しい希望が芽吹く春がやってきそうな予感です。

（記・入試広報室長 坂内 浩三）



〒390-1295 長野県松本市新村2095-1
TEL 0263-48-7200 FAX 0263-48-7290
www.matsumoto-u.ac.jp

